

特集 “CO-OP” と「商品」の現在地

01

コープ商品の 特徴と社会的意味を考える 〜コープの洗たく用洗剤／セフターを事例に

石井 陽子（株式会社コープグリーン営業部）



（株）コープグリーン社屋
（本社：埼玉県蕨市）

はじめに

1951 年、日本生活協同組合連合会が設立し、1960 年 CO・OP 生協バターが、コープ商品第一号として誕生しました。その 9 年後の 1969 年、洗たく用洗剤 CO・OP セフターが生まれ、会員生協・組合員の積極的な取り組みにより、また、全国的な生協の拡大と共に、コープ商品のシンボリックな存在として成長していきます。コープ商品には、たくさんのロングセラー品が存在しますが、家庭用品分類において、セフターは、最も長く供給を続けている商品のひとつであり、おかげさまで、今年で 46 周年を迎えることができました。

現在、セフターを製造し、日本生活協同組合連合会に販売している弊社／株式会社コープクリーンは、日本生活協同組合連合会の子会社です。1978 年設立後、セフターと共に、今日まで歩んできました。組合員がどのようにセフターを生み出し、改善を求め、支えてくれたのか、時代背景と年代ごとに、商品に関わる事実をまとめることで、セフターが内包する社会的意味を考えてみたいと思います。

1. 株式会社コープクリーンとは

弊社は、1978 年、より良い洗剤を求める組合員の声を受け、日本生活協同組合連合会と旭電化工業（現・株式会社 ADEKA）の出資により設立されました。現在は、コープ洗剤の処方研究に始まり、原料資材の調達、生産発注、生産管理、輸配送在庫管理、品質管理、営業販売管理を一手に担っている「生産工場を持たない」メーカーです。工場は持っていませんが、それ以外は他メーカー同様の機能を全て持ち合わせております。（資本金 8,000 万、社員数 49 名、事業高 42 億 8,100 万円 2015 年 3 月時点 <http://www.coopclean.co.jp/>）

2. 黎明期のコープ洗剤

コープ洗剤第一号

LAS系洗剤「CO・OP ソフト」

1960年代に入ると、家事を楽にする洗濯機が各家庭に普及、洗たく用合成洗剤の利用が一気に増加します。1960年代前半は、一般的に、難分解性界面活性剤・ABS（アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム）を使用した合成洗剤が主流でした。ABSは、安価で洗浄力が高い界面活性剤ですが、それは、同時に、河川・湖沼においては泡公害を、家庭においては、家事を担う消費者の手荒れを引き起こしていました。

ABSを使用した合成洗剤が大きく社会問題化すると、「水環境に優しい洗剤を開発してほしい」という組合員の要求が高まりました。コープ独自の環境に配慮した洗剤開発の必要性が日本生活協同組合連合会によって議論され、1966年、難分解性の“ハード型”洗剤ABSから、より生分解性のよい“ソフト型”LAS（直鎖アルキルベンゼンスルホン酸塩）系洗剤「CO・OP ソフト」が開発されます。これが、日本生活協同組合連合会が発売したコープ洗剤第一号です。CO・OP ソフトの開発にあたっては、全国57生協、5,000名（回答1,970名）の組合員が使用テストに参加しました。組合員の生活実感と環境配慮の特性を併せ持つコープ洗剤の先駆け的商品です。

1969年 高級アルコール系「CO・OP セフター」

その後、日本生活協同組合連合会は、さらに生分解性がよく、手肌刺激の弱い高級アルコール系界面活性剤に着目します。水環境中の生分解性と安全性を重視したコー

プ洗剤として、1969年、CO・OP セフターが誕生します。（使用テスト参加者10,000名、回収2,852名）“セフター”という商品名は、組合員から募集し決定されたもので、「安心・安全（Safe）」の想いが込められています。名は体を表すと言われる通り、以来、セフターは、組合員の声に耳を傾けながら進化を続けます。大手メーカーの洗剤が、高級アルコール系に代わるのが1980年代ですから、コープ洗剤は、その10年以上前に高級アルコール系に切り替えていたことになります。

1973年 セフター、蛍光剤無配合に

「よりよい洗剤を目指して」というスローガンの下、高級アルコール系洗剤・セフターの供給促進が図られ、同時にLAS系洗剤の追放運動が活発に展開されました。1971年ドイツで発がん性の疑いがあると指摘された蛍光剤（現在は、否定されている）を、1973年、セフターに配合するのを止めたのは、組合員の声に寄り添った結果の改善です。この時期から、「洗浄力に寄与しない成分は入れない。不要な化学物質をなるべく排除する」というコープ洗剤のポリシーが固まっていったのではないかと推測できます。現在も、すべてのコープ洗剤に、蛍光剤は配合されていません。

一方、1973年第一次石油ショック以降、粉石けん運動が全国的な広がりを見せ、「粉石けん以外は認めない、合成洗剤＝有害、公害のもと」という意識の高まりから、高級アルコール系「合成洗剤」セフターも、LAS系「合成洗剤」と同一視されていきます。1973年当時、高級アルコール系界面活性剤の生分解性の良さは公知でしたが、各種安全性に関しては、実験データの蓄積が乏しく、そのため、セフターを供

給する日本生活協同組合連合会や地域生協は苦しい立場に追い込まれました。

このような経過から、1975 年、日本生活協同組合連合会は、粉石けんを開発、供給を開始します。一方で、合成洗剤の使いやすさと石けんの安全性や環境影響の少なさを併せ持つ「第三の洗剤」を模索していました。

3. 第3の洗剤とセフターの模索

1978 年 TAL 洗剤無リン複合せっけん「コープクリーン」

この「第三の洗剤」が、通称 TAL 洗剤、正式名称「コープクリーン」という洗たく用洗剤で、会社設立後、初めて弊社が開発した商品でした。コープクリーンには、当時合成洗剤の主流だった“LAS”を使わず、セフターで採用していた LAS より安全性や生分解性の高い“高級アルコール”も使わず、さらに信頼性の高い“TAL”を採用した点が画期的でした。(TAL とは、シュガーエステルとカリ石けんが主成分の界面活性剤。)[安全性の点からは全く欠点がない原料でコープの洗剤を作る。これこそが、組合員の望む洗剤だ。]という意識が、市場にない商品を生み出そうとする原動力となっていました。

当初、弊社では、TAL 洗剤を有リンで処方開発を行っていましたが、琵琶湖の富栄養化問題に象徴される洗剤のリン問題を敏感に受け止め、急遽、無リン化した洗剤として処方を組み替えます。有リン合成洗剤の使用・販売禁止を主旨とする「琵琶湖条例」制定が 1979 年ですから、その 1 年前に無リン洗剤を発売したことになり、業

界の先陣を切りました。

1978 年テスト販売後、翌 1979 年、「コープクリーン 2.65Kg」の供給を開始。高級アルコール系合成洗剤セフターから、TAL 洗剤・複合せっけんコープクリーンへの大転換が全国の地域生協で大々的に展開されました。

夢の洗剤は、失敗に

しかし、TAL 洗剤が、薄茶色だったこと、市販 LAS 合成洗剤との洗浄力格差が大きく、結果として、組合員の支持を得る事ができませんでした。供給量が伸びないため、TAL 原料の引き取り契約を継続することができず、発売からわずか 4 年後の 1982 年、供給を中止。日本生活協同組合連合会家庭用品部と弊社役員が、TAL 洗剤・コープクリーンの開発を支持し、普及拡大にご尽力頂いた地域生協、組合員に対して、説明とお詫びのために全国行脚をしました。

このように、TAL 洗剤は、失敗に終わり、早々に廃番せざるを得ませんでした。が、“夢の洗剤”の開発や供給促進する過程で、組合員の願いを中心に据えた仕事を遂行することこそが、弊社の使命だという共通認識が醸成されていったと推測されます。

1980 年 セフターの無リン化

1980 年度、日本生活協同組合連合会は、洗剤の環境問題を重視した「LAS 追放・有リン洗剤の追放」の方針を掲げます。それを受け、TAL 洗剤を無リン化した時に得られた技術を応用し、セフターの無リン化に着手、ラインの付着問題などにぶつかりつつも、処方修正を経て、1980 年、「無リン合成洗剤」に改良したセフターを発売します。

1980 年前半「無リン合成洗剤」と「石けん」のはざまでもがくセフター

セフターが無リン化した 1980 年、東京都から LAS 洗剤について「通常の使用では健康に特に影響を及ぼすとは考え難い。適正使用の指導は必要」という報告書が出されます。1983 年、厚生省（現・厚生労働省）が、「洗剤の毒性と評価」を発表、洗剤の安全性に関する研究の集大成として評価が定着してくる中、洗剤市場は、「無リン合成洗剤」と「石けん」に二極化していきました。

無リン合成洗剤の先鞭をつけたセフターでしたが、約 3 年後には、市販合成洗剤の無リン化がほぼ完了した為、セフターと市販合成洗剤との差は、LAS より生分解性のよい AS（アルキル硫酸エステル塩）配合の優位性だけとなっていました。また、LAS と比べ、セフターの主原料である AS は、原料コストで約 3 倍高く、また、原料の特性上、生産効率も悪かったため、セフターは、市販合成洗剤よりもかなり高い商品にならざるを得ませんでした。

1983 年 セフター、植物原料へ

「合成洗剤か石けんか」の区別だけが強調される社会環境の中で、石けんを販売する生協の洗剤売り場への評価は高まってきました。1983 年、高級アルコール系界面活性剤を石油系原料から再生産可能な植物系原料に変更したにも関わらず、「合成洗剤であるセフター」は、組合員の支持を受けきれないまま低迷し続けます。

4. 市販洗剤の変化とセフターの改善

1980 年半ば～1990 年代前半

一時代を築いた複合せっけん

市販合成洗剤の無リン化完了と同時に、全国的な洗剤運動は沈静化してきましたが、1980 年代を通して、全国の生協運動はむしろ活発化し、組合員数も供給高も高い成長を維持、それに比例するように、弊社の売り上げも成長を続け、1992 年にピークを迎えます。

セフターが伸び悩んでいたこの時期に、組合員に支持されたのは、失敗に終わった TAL 洗剤の後継として位置付けられた「複合せっけん」でした。1983 年「CO・OP ニュークリーン」発売から始まり、1988 年、コンパクト化した「CO・OP ニュークリーン C」、1991 年、溶解性を向上させた「CO・OP クリーン E」と改善を続け、供給を積み上げていきました。

当時、洗剤業界全体では、合成洗剤に比べて粉石けんの需要が目に見えて下降していきました。1985 年のウイーン条約締結以降、地球環境を守ろうという意識の高まりもあり、環境配慮商品として、生協の石けん、複合せっけんだけは、尚も伸び続けていました。1986 年度、弊社製品に、弊社製品以外のコープマークの粉石けんを含めると、実に、粉石けん市場の約 50% 弱を占めるに至っていたことから、「よりよい洗剤を普及する運動」が大きな実績を上げていたことがわかります。

組合員の声を受け、改善を続けた複合せっけんは、石けんとの比較においては、優位

性を特徴付けることができ、支持を得る事ができました。が、本質的には石けんベース（石けんの配合率 7 割）のため、合成洗剤の使い勝手には及ばず、合成洗剤でもなく石けんでもない複合石けんは、第三のポジションを大きく超えて成長することはありませんでした。

1987 年 花王アタック登場後の、 組合員意識とコープ洗剤政策の変化

1980 年代後半、洗濯機の全自動化が進行する中で、市販洗剤の商品改良が飛躍的に進展していきます。一般的にも、コープ洗剤にとっても、契機となった出来事が、1987 年、世界に先駆けて花王株式会社が発売したコンパクト粉末洗剤アタックの登場でした。

「スプーン 1 杯」のアタックとは対照的に、「カップ 1 杯」の粉石けんの取扱いにくさ、特に、溶けにくさが顕在化し、組合員の粉石けんに対する支持率が低下していきます。コンパクト洗剤の登場と全自動洗濯機の普及に伴い、洗剤の溶けやすさが、組合員の求める洗剤の要件となり、特に、粉石けんの衰退を大きく決定付けました。このような組合員意識の変化を受け、1987 年、日本生活協同組合連合会は、粉石けん、複合石けんを中心とする 1978 年以降の洗剤政策の見直しに着手しました。TAL 洗剤以来の経過もあった為、全国商品開発委員会において、「新洗剤政策」が提案され、2 年間の活発な議論が行われました。その結果、1988 年、石けん中心政策を改めて、高級アルコール系洗剤をよりよいコープ洗剤の柱とし、積極的な商品開発と供給促進に取り組む方針が承認されました。

1988 年 コンパクト化した、 「CO・OP セフター C」

1986 年、ヨーロッパの生協を視察した際、スイスの生協／ミグロスの洗剤工場ミーファで、コンパクト粉末洗剤の存在を知り、また、国内では、公開された花王の特許に関心を寄せていました。1987 年アタック発売以降、粉末洗剤は、急速にコンパクトタイプに移行を始めたことを受け、弊社も開発に着手、研究陣と技術陣の懸命の努力、委託先の協力のもとに、1988 年コンパクト洗剤セフター C を発売しました。

1994 年 低価格化時代に生まれた、 「CO・OP セフター E」

1993 年頃、大手量販店／ダイエーが仕掛けた低価格時代に突入しており、日本生活協同組合連合会でもコープ商品の低価格化対策が実施されつつありました。それに応じて、弊社では、セフター C の低価格化に取り組みました。当時 1.5 k g で 500 円台の商品価格を 300 円台に値下げする大胆な挑戦でしたが、コスト引き下げのため、研究、技術、資材の全部門の総力で、1994 年「CO・OP セフター E」として、実現することができました。

セフター E の「E」には、エコノミーとエコロジーの「2 つの E」の意味が込められています。このコンセプトが組合員に支持され、セフター E は、発売後一気に、コープ洗剤の中核商品となります。1994 年、クリーン E に代わって、コープ洗剤 NO.1 の実績を収めて以降、セフター E の改良が、処方開発業務の中心となりました。

1990 年代の洗剤政策と取り組み

市場が一気に高級アルコール系洗剤へのシフトを進める中で、洗剤の環境影響を、

改めて、科学的に究明するための取り組みが進められました。1992～1994年にかけて、新潟大学の高橋敬雄先生と日本生活協同組合連合会とが、洗剤の環境影響に関する共同研究を実施しました。また、横浜国立大学へは、洗剤の魚毒性に関する研究委託を行っています。

このように、洗剤の環境影響に関するデータが整えられる中で、1997年、日本生活協同組合連合会が、学習資料「水環境と洗剤」を発行、全国の生協職員へ配布されました。研究結果をもとに、「いずれの洗剤も環境影響の仕方が異なるにせよ、何らかの環境影響を与える事には変わりがないこと」、「洗剤の使用量自体を減らすことが重要であること」が説明されました。

そして、生分解性がよく、環境影響の少ない洗剤として、高級アルコール系洗剤および、石けんを中心に商品開発を進めることが改めて確認されることになりました。

セフター、改善を重ねる

「洗剤の使用量自体を減らす事が、洗剤の環境影響を減らすことにつながる」との科学的視点から、組合員の要望に沿ったスペックアップとともに、処方改善を進めました。

溶解性の改善と標準使用量 20 g（1996年）、洗浄力を向上させるため2つ酵素を配合（1998年）、3つの酵素配合と標準使用量 17 g（2000年）、4つの酵素と泥汚れ洗浄力向上のため水溶性ポリマー配合（2002年）、そして、2004年、標準使用量 15 gを実現し、競合する商品との比較においても、最も少ない標準使用量で、かつ、引けを取らないと溶解性と洗浄力を発揮する洗剤（弊

社研究部調べ）として供給を続けております。

5. 新しい時代のコープ洗剤

2000年代 コープ洗剤政策と

具体的な取り組み

2013年度末の下水道処理人口普及率は77.0%、下水道整備人口は約9,714万人となりました。（出典：国土交通省HP、福島県を除く数値）日本に住む人の3人に2人は、下水道設備の整った場所に暮らしていることとなります。1960年代の下水道普及率10%未満（出典：国土交通省「日本の下水道行政について」）でしたから、日本の水環境が、大きく改善されたことがわかります。

下水道や合併浄化槽の普及に伴い、水環境をめぐる議論が下火となる中、地球環境問題がクローズアップされることになりました。2000年、日本生活協同組合連合会は、「第三次環境保全活動中期計画」を発表、従来とは異なる、多面的な環境保全活動の必要性が提起されます。このような背景のもとに、水環境の保全運動が発原点であったコープ洗剤の環境政策も、転換が必要となりました。

次からは、現在の洗剤政策に基づき、セフターに表現された環境配慮の取り組みをご紹介します。

2010年から開始した

コープの洗剤寄付キャンペーン

対象のコープ洗剤を1品購入頂くことに、1円を寄付金として積み立て、国内外の環境保護団体に寄付する取り組みです。2011年からは、NPO法人ボルネオ保全ト

ラストジャパン (BCT-J) が進めている「ボルネオ緑の回廊プロジェクト」にも寄付しており、パーム油の原料産地であるマレーシア・ボルネオ島の生物多様性を維持、回復させる活動に役立てられています。

2010 年 カーボンフットプリント (CFP) 表示を開始

カーボンフットプリントは、直訳すると「炭素の足跡」という意味で、事業者と消費者が一緒になって、二酸化炭素 (CO₂) 排出量削減に取り組むためのツールです。製品のライフサイクル全体で排出される温室効果ガスの量を合算し、それを、CO₂ 排出量に換算して表示しています。2010 年、コープ洗剤として初めて、セフター E、セフター漂白剤入りに、CFP 表示を開始しました。

2012 年 RSPO 認証パーム油購入開始

大気中の CO₂ 増加を抑制する植物原料であるパーム油を、セフターの原料として、積極的に利用しています。パーム油は、食用にも工業用にも活用されており、2005 年大豆油を抜いて、世界で最も生産量の多い油脂となりました。一方、パーム農園の急激な拡大に伴い、生物多様性保護にとって重要な熱帯雨林地域の破壊など、深刻な環境問題を引き起こしています。

この問題への対応として、2006 年、弊社は、RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議) に加盟。現在、RSPO 認証パーム油を購入するには、4 つの方法がありますが、2012 年、セフター E、セフター漂白剤入りに使用しているパーム油量に相当する証書 (クレジット) の購入を、Book and Claim 方式から開始、2013 年以降は、セフター NEXT を加えたコープ洗剤 3 品

に関する証書を購入しており、将来的には、レベルアップを図りたいと考えています。

セフターに関する、最新の組合員評価

2015 年実施した組合員アンケートの結果、コープ洗剤は、「安心できる」「声を大切にしている」「環境に貢献」「原材料へのこだわり」等の項目で、高い評価を頂きました。一方で、セフターは、「環境負担が少ない」「肌への刺激が少ない」等の項目で高評価を得たものの、コープ洗剤のブランド力がセフターに十分継承されていないことがわかりました。

6. コープ洗剤の役割とこれから

この 10 年で、粉末合成洗剤⇒液体合成洗剤⇒濃縮コンパクト洗剤とトレンドが変化し、市販洗剤も、コープ洗剤も、一気にラインナップが多様化しました。その結果、セフターが、一見わかりにくい商品となってしまう、社会状況的にも、市販洗剤とセフターの差がはっきりしないという認識の下、セフターを含めたコープ洗剤の今後の役割を、以下の様に捉えています。

コープ洗剤の社会的役割

1. 洗剤中の界面活性剤は、家庭から水環境中に排出される化学物質として、依然として最大量を占めており、化学物質による水環境汚染の現況は引き続き大きな問題とされている。今後、水環境影響を考慮した商品設計と組合員への適切な環境情報提供はますます重要な課題となる。
2. 地球温暖化を防止するための具体的な対応が国民的レベルで求められている。コープの環境配慮商品、特に、コープ洗剤も、これに積極的に応えたものでなければ

ならない。

3. コープの洗剤は、環境配慮の側面においては、常に業界の「トップランナー」としての役割を果たしてきた。コープ洗剤が以前から関わってきた植物性の再生可能原料も、改めて注目されている。既に、商品の環境対応が当然とされる社会的な雰囲気の中で、大手洗剤メーカーにおいても環境配慮優先の商品展開が進められている。コープ洗剤の社会的使命として、さらに一歩進んだ環境配慮商品の開発が必要である。

セフターの到達点と展望

2013年、約5年の開発期間を経て、すぎ1回の粉末洗剤「CO・OP セフター NEXT」を発売しました。新採用した「ドライブレンド製法」により、粉の製造時に排出されるCO₂を約70%削減（セフターEとの比較）、標準使用量は、セフターEよりもさらに少ない10g、主洗浄成分には、パーム油由来原料MES（アルファスルホ脂肪酸エステルナトリウム）を採用しました。セフター史上最も標準使用量が少なく、しっかりとした洗浄力を発揮し、RSPO認証パーム油を採用している事を含め、今日的な環境配慮の視点を十分に盛り込んだ洗剤です。

コープ洗剤の社会的役割を具現化したものと言えますが、発売後2年を経て、組合員からの支持を十分に得たとは言い難い実績にとどまっています。一方、2015年の組合員アンケートでは、「セフター NEXT は、セフターについてもっと知りたくなる商品」という点で評価されており、セフターの社会的役割を表現した商品として受け止められていることもわかりました。

弊社は、時代のありように敏感な組合員とのコミュニケーションをさらに深めてい

く中で、その社会的役割を積極的に果たしていきたいと考えています。専門家集団であることの自覚を持ち、TAL洗剤を生み出した頃と同様に、チャレンジ精神を持って、組合員に支持されるセフターの開発と供給に従事して参ります。